

令和3年度 5-③

大村市 認知症基礎講習会



BPSDについて I ～病態・症状～

うえき心療内科クリニック

植木 健

認知症サポート医



内容

- BPSDとは
- BPSDの症状
- BPSDはどうして起こるのか





BPSDとは

Behavioral and psychological symptoms of dementia

の略です。

認知症に見られる「行動面と心理的症狀」という意味です。



まず、代表的なBPSDの「もの盗られ妄想」
のシュミレーションビデオをお見せします。

ちなみに、妄想とは、

- ① 実際にはないことをあると思っている。
- ② それが事実だと信じて疑わない。
- ③ それが説明・説得しても訂正できない。

The background features decorative white line-art illustrations of leaves and branches in the corners. The top-left and top-right corners show clusters of oval-shaped leaves on stems. The bottom-left and bottom-right corners show larger, more complex leaf shapes with internal vein patterns, and a small stem with two leaves at the very bottom corners.

もの盗られ妄想のビデオ

メディカルセミナーズの公式サイトから借用

異食



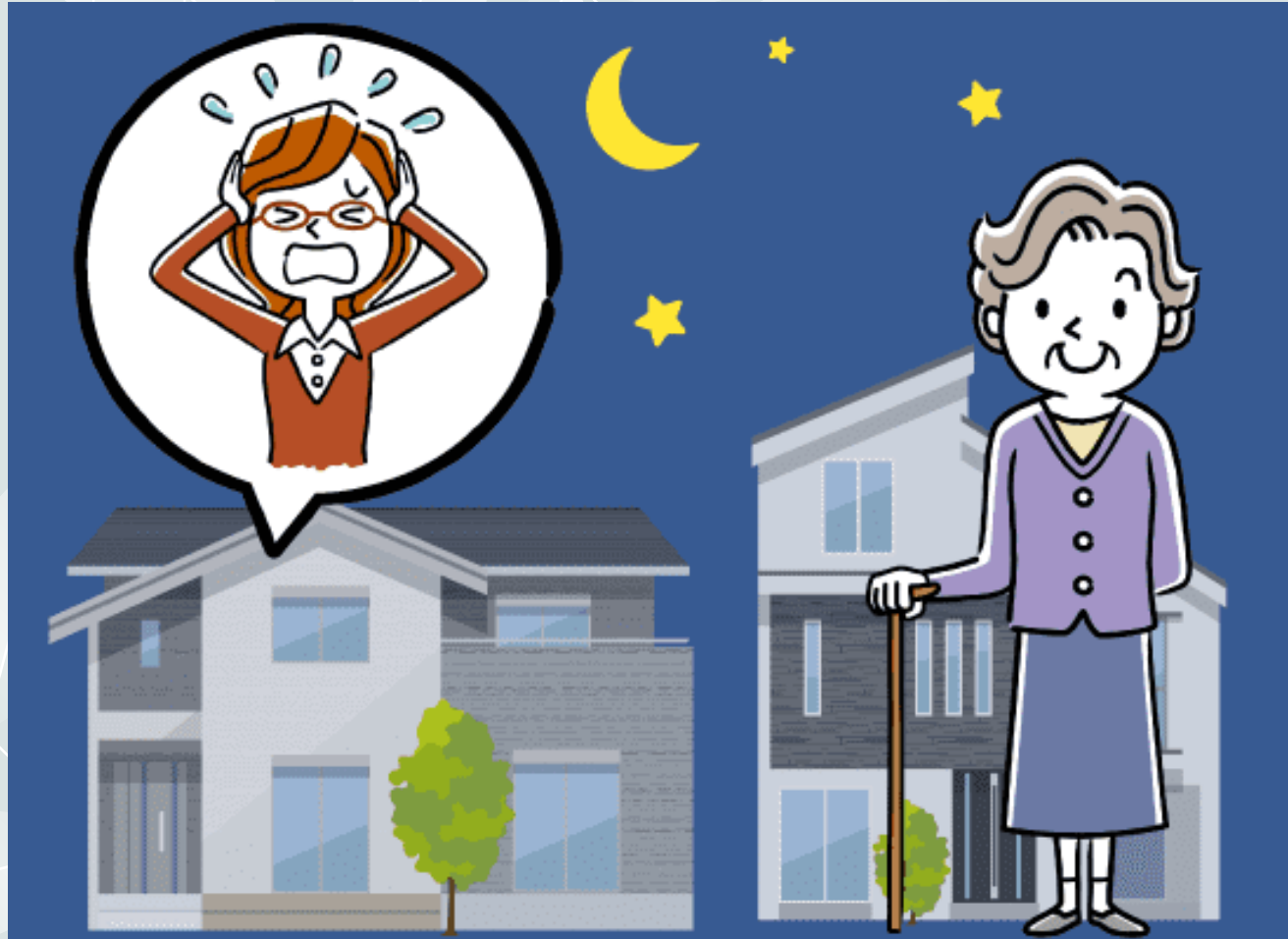
老人ホーム検索サイト
みんなの介護より引用

収集癖



老人ホーム検索サイト
みんなの介護より引用

徘徊



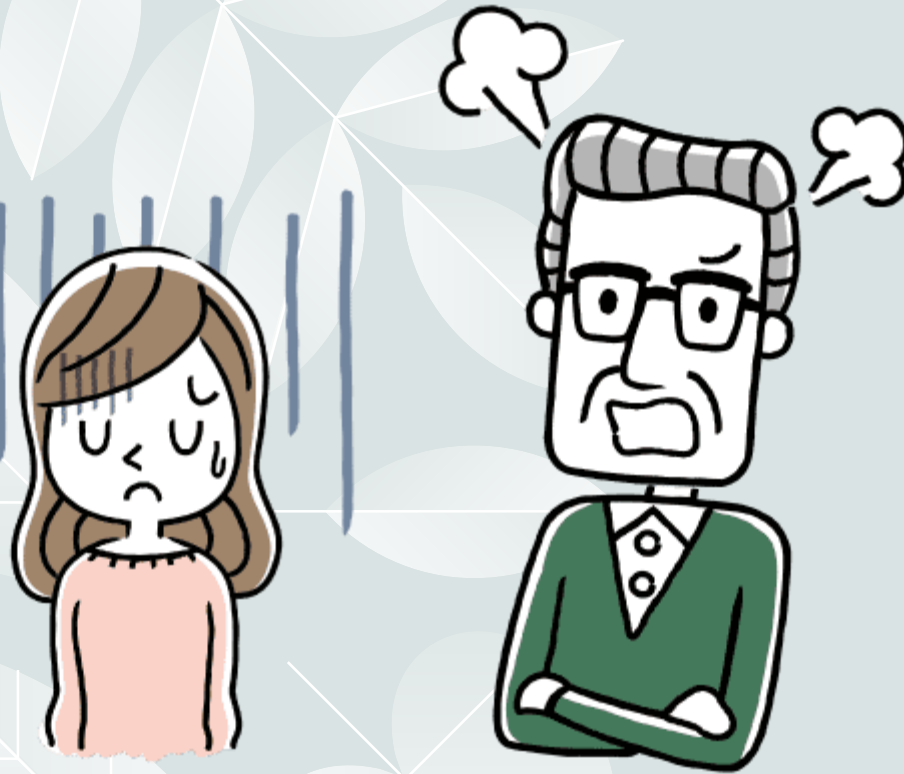
老人ホーム検索サイト
みんなの介護より引用

同じ話を繰り返す



老人ホーム検索サイト
みんなの介護より引用

暴言・暴力



老人ホーム検索サイト
みんなの介護より引用

BPSDの症状とは

心理症状：妄想、誤認、幻覚、うつ、アパシー、不眠、不安など

行動症状：徘徊、焦燥・攻撃性、介護に対する抵抗、不適切な性的行動、不穏、収集癖、ののしり、つきまといなど

「文化的に不釣り合いな行動」も含まれる

せん妄とBPSDは区別



BPSD は大きく4つに分類できます。

①活動性亢進症状：

焦燥性興奮、易刺激性、脱抑制、異常行動、暴言や暴力、徘徊など。

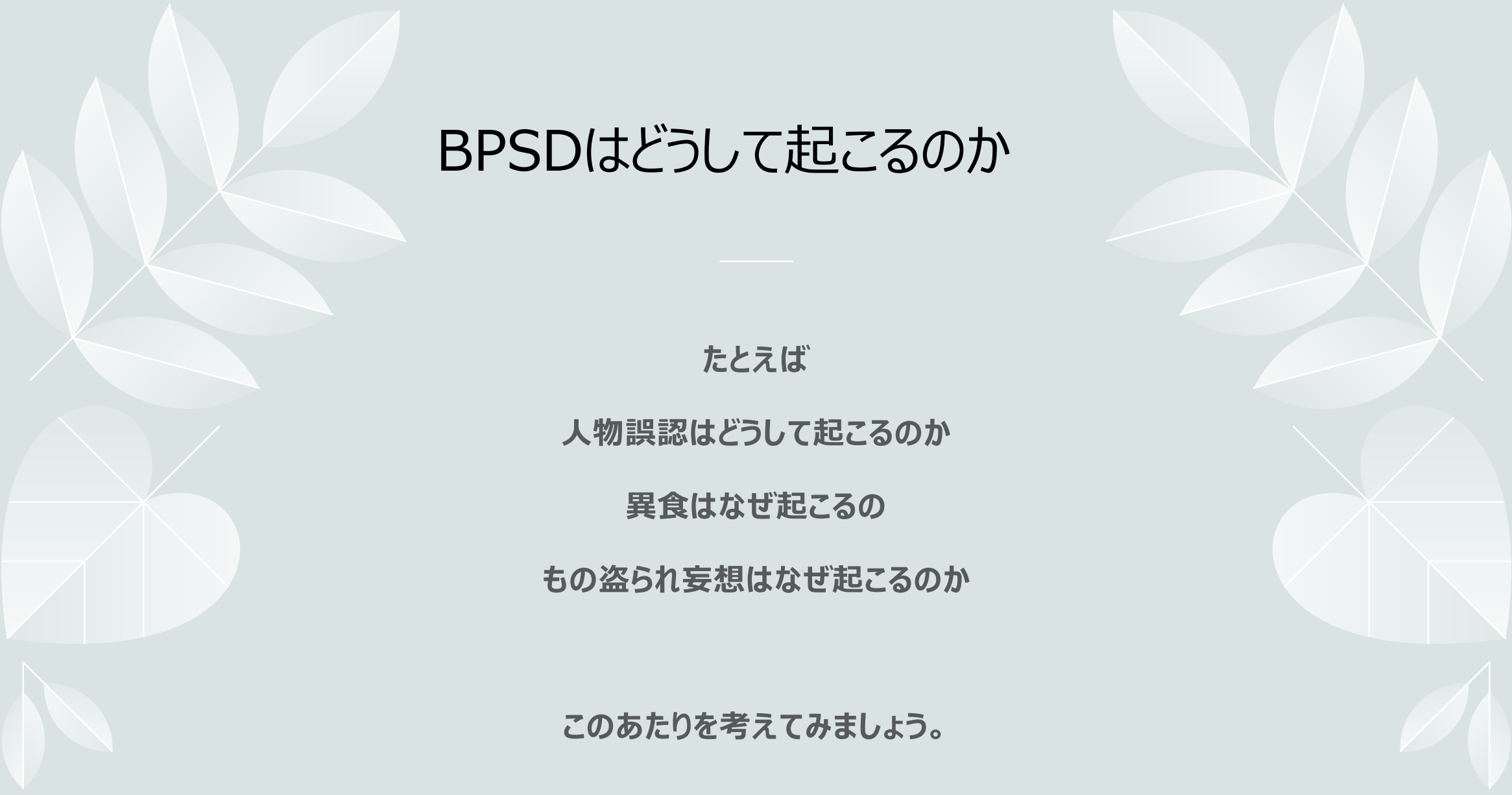
②精神症状：

幻覚、妄想、夜間行動異常、不眠、睡眠障害など。

③感情障害症状：

不安、ひどく落ち込む、悲哀感、自責感など

④アパシー症状：意欲低下、自発性低下、情緒の欠如、不活発、周囲への興味関心の欠如など



BPSDはどうして起こるのか

たとえば

人物誤認はどうして起こるのか

異食はなぜ起こるの

もの盗られ妄想はなぜ起こるのか

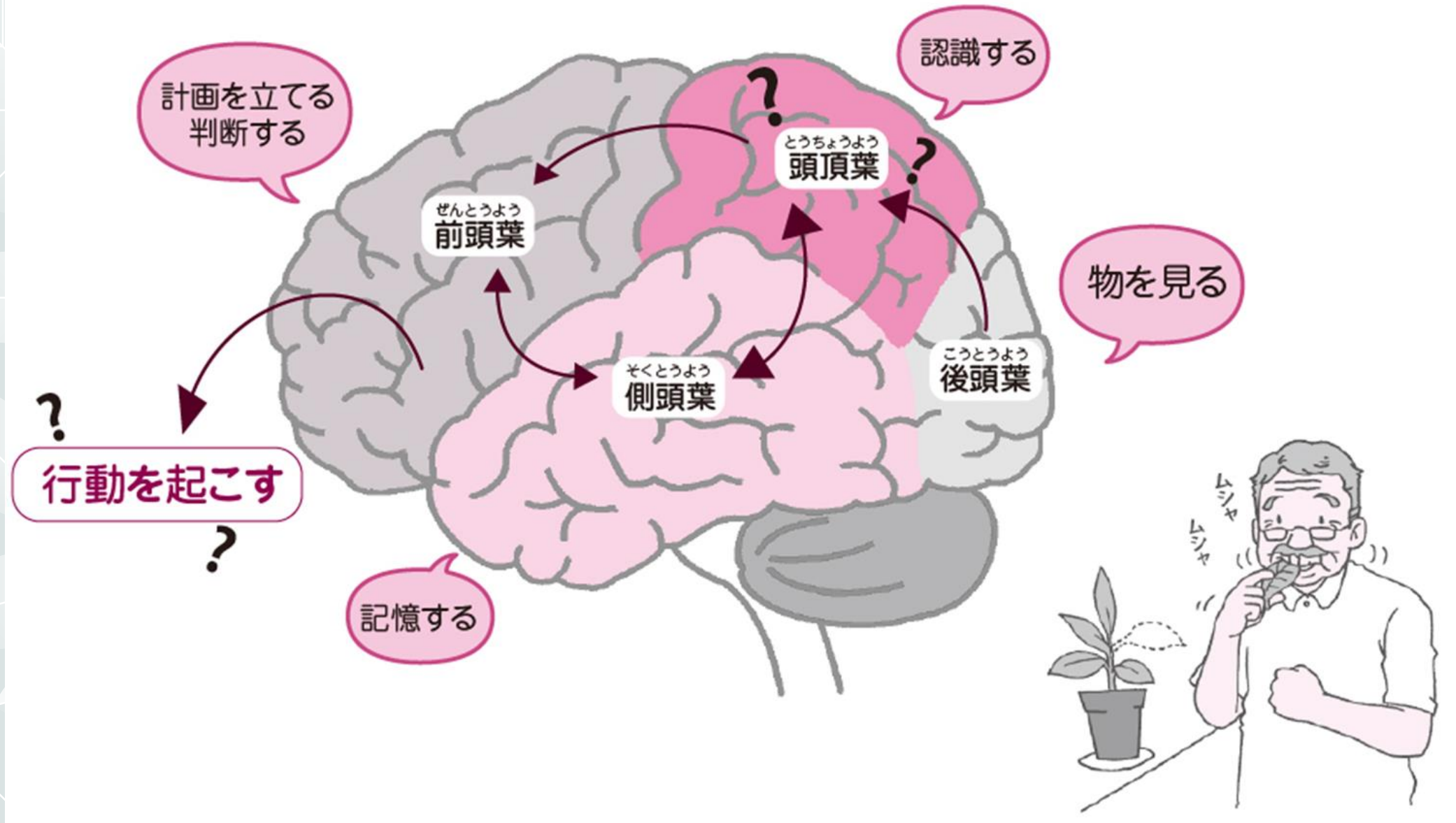
このあたりを考えてみましょう。

中核症状とBPSDの関係

人物誤認（中核症状）は単純な見当識障害とみることもできるし、妄想性の障害と考えることもできる。

基本的にはBPSDは認知症の中核症状の一部が行動化されたものと考えられる

BPSD(行動・心理症状)はなぜ出現するのか



もの盗られ妄想

もの盗られ妄想も記銘力障害（中核症状）に妄想的確信が加わった行動化と考えられる。

脳の認知症病変
神経細胞ネットワークの崩壊

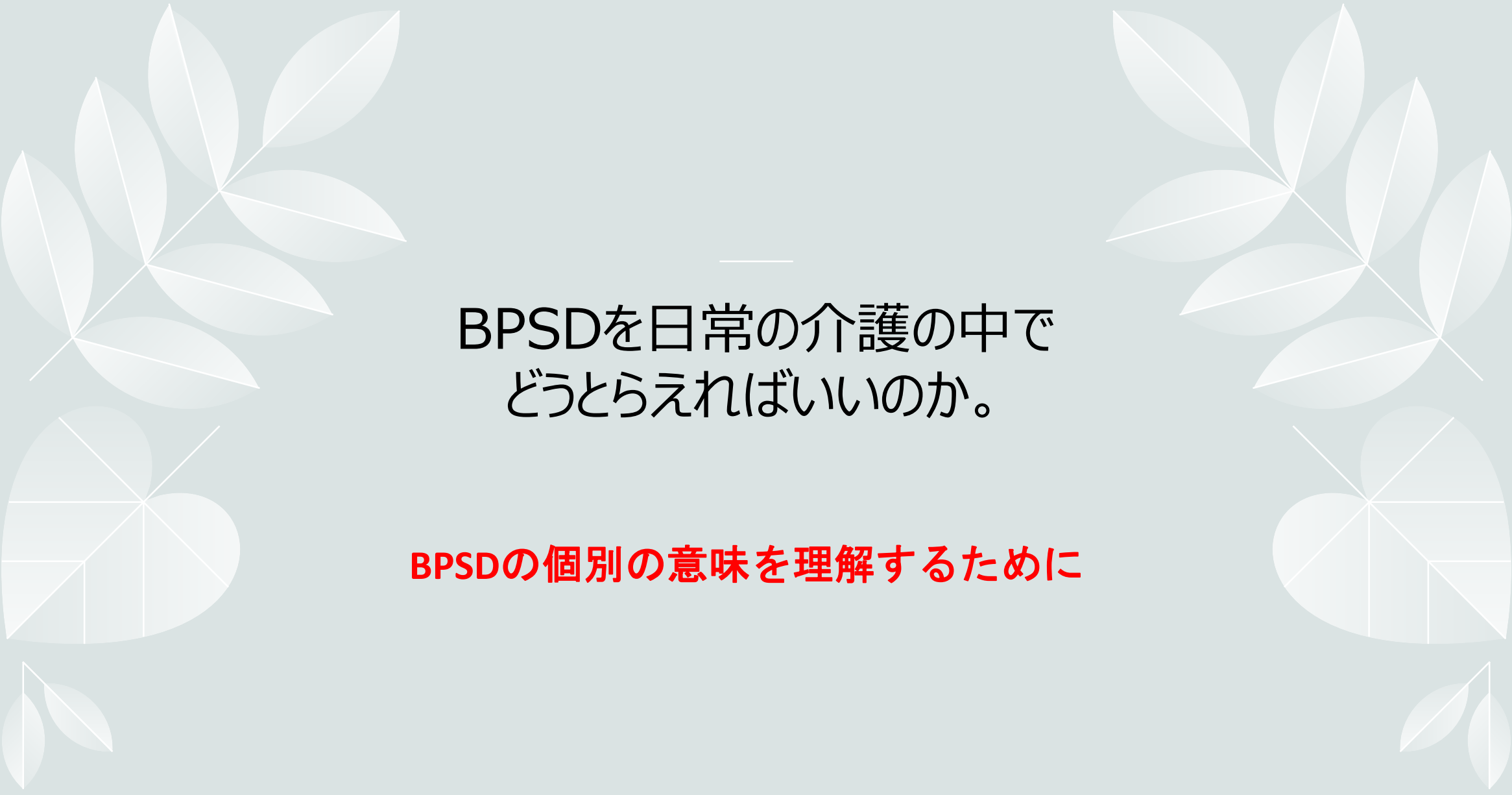
認知症状（中核症状）

記憶障害、見当識障害、理解・判断力の障害
実行機能障害、その他

性格・生活史

環境・ケア

行動・心理症状（周辺症状）

The slide features a light gray background with decorative white line-art illustrations of leaves and branches in the corners. The top-left and top-right corners show clusters of oval-shaped leaves on thin stems. The bottom-left and bottom-right corners show larger, more complex leaf shapes with multiple lobes and stems. The central text is positioned between these decorative elements.

BPSDを日常の介護の中で
どうとらえればいいのか。

BPSDの個別の意味を理解するために

- ・ 帰宅願望の例

施設の入居者が

- ①「帰りたい」とつぶやいた。
- ②「帰りたい」と大声をだした。
- ③玄関ドアの前に立ち続けた。
- ④玄関ドアの前で「帰せ！」と怒鳴った。
- ⑤さらにドアを蹴った。

- ・ 排尿の例

施設の入居者が 排尿した。

- ①尿失禁は認知症に特有の症状ではない。
- ②脳・脊髄の排尿調節中枢が壊れると生じることがある。
- ③健常な高齢女性は姿勢変換などで漏れることもある。
- ④高齢者にしばしばみられる生理的な機能障害の可能性

一見BPSDに見えても、それに該当しない要素がたくさんある。
詳しく見て行けば、尿失禁はBPSDではないとも考えられる。

洋式トイレで便座のふたを開けずに排尿したらBPSDか？

- ①ふたをふたと認識できなかった失認かもしれない。
- ②ふたと認識できたが開け方がわからなかった（記憶障害）。
- ③開けてから排尿する一連の手順ができなかった失行もある。

失行・失認は認知症状（中核症状）

「便座のふたを開けずに排尿」という行動を、「多くの人はそうしないし、多くの介護者が困る症状」という視点で見れば BPSD。

失行・失認という視点で見れば認知症状（中核症状）。

ADLの視点で見れば生活障害となる。

起こっている事象をどの視点で見るかによって、その行為が BPSDかどうか180度変わってくる。

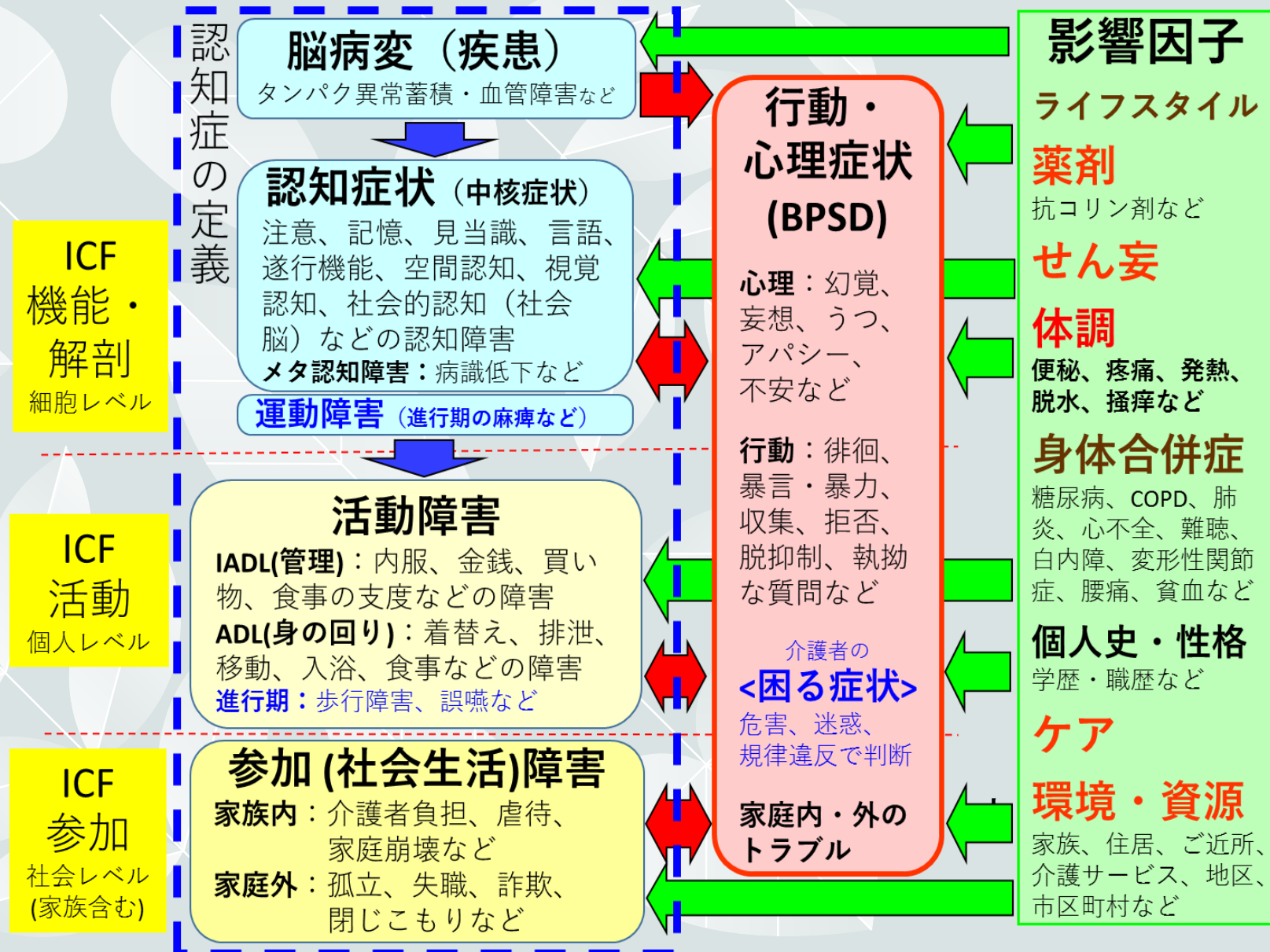
BPSDは医学的に異常なものというニュアンスがある症状
しかし、人の感情や行動に異常・正常の境目を引くのは簡単ではない。
安易に“異常”とすることには問題がある。

—
よって

「普通の人ならやらない行動がBPSDとみなされる傾向がある」

さらに

社会のルールを逸脱する行動もBPSDとされます。
これは社会的認知の障害の結果として生じる。
「文化的に不釣り合いな行動」





2006年9月23日
中国・瀋陽の故宮にて



受講お疲れ様でした

次の單元へ
お進みください

